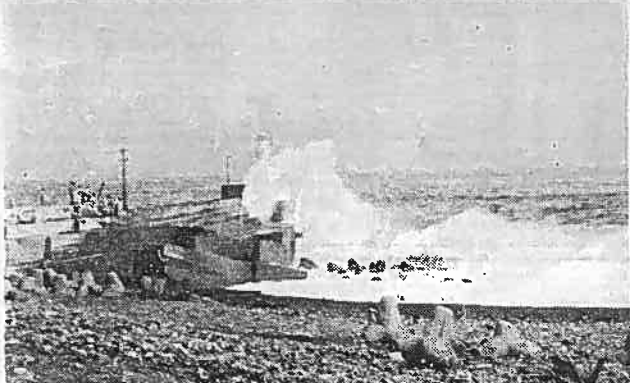




備えあれば憂なし

気象情報をよく聞く

いよいよ九月の声をききますと、さわやかな秋風吹く暮しよい季節に入りましたが、反面、九月は二百十日とか二百二十日といういやな台風の本格的シーズンの到来であります。毎年きまつてやってくる台風として数多くの被害と尊い人命を奪つていくのです。毎年このようにくりかえす「天災」に対し国や県および市では、あげて防災の対策をたててはおりますが、この恐るべき天災台風に対する知識を私たちはより一層高め被害を最少限にしたいとめ豊かな生活を守るために「台風」については田子浦港西灯台に打寄せる高潮)



△風向き……
台風の風は「目」を中心左向き(時計の針と反対方向)にワズ巻いていきます。従つて台風圏内では進行方向に向かって中心の右半円では風の速さに台風自体のスピードがかわりますので、風力は比較的強い。地形の影響の少ないところでは、風を背後から受けその姿勢で左手を真横にあげればその方向に台風を中心(目)があることになります。

△風速と被害規模……

風速十米——雨傘がこわれる程度です。十五米——取りつけの悪い看板やトタンが飛びます。二十米——大人は上体を三十分程度くらい傾けないと風に向かつて歩けない。子供は飛ばされそうになります。二十五米——屋根ガワラが飛び、煙突などが倒れます。

三十米——雨戸がはずれ、補強をしないと家は倒れます。四十米——列車が倒れ、小石が飛びます。五十米——、たいていの木造家屋は倒れ、樹木は根こそぎになります。

◇家屋の防護策……

屋根は風でめくられそうなかワラはしばりつけ、風の入りそうな部分はシツクイをつめます。窓、出入口——吹き抜かれたりよう板やカンヌキで補強する

カベ——建て物の南東のカベや軒裏の小カベが被害を受けやすいので防水剤入りのモルタル材で補強し、板カベは風の引く

力も考慮してクギ打ちを嚴重にする。

▽家庭の防災常備品

照明具(ヒモつき懐中電灯、ロソクなど) 大工道具食料品、

(飲み水、水筒、パン、カン詰) 医薬品、ふろしき、地図、鉛筆、トランジスタラジオ、ヘルメット、ずきん、さふとんだ。

災害を未然に防止

市に防災会議を置く

市は災害対策基本法にもとづいて「市地域防災計画案」を関係機関の協力によつてまとめました。

救助訓練、流木対策、避難、救出、通信情報連絡などを行ないます。

▽災害応急対策

これに関して市では、もつとも重点を置いて検討しており、とくに動員計画については対策本部長(市長)が必要と認めるとき動員対象者(市職員、消防団、水防団、警察官、自衛隊、医師その他)のうちから必要とするものについて行ないます。自衛隊の派遣要請は原則として人命及び財産の救援のため必要である場合に限られています。

また防災の基本計画の設定 については、このほど新たに市災害対策本部の強化などによつて市における防災の基本計画が設定されました。

▽防災のための調査研究

これは、市内における災害発生の際から自然災害に重点を置いて災害防止の基礎資料を作成します。

▽防災訓練は、災害が発生した場合において災害応急対策の完全遂行をはかるため総合的計画的な防災体制の整備と水防

▽災害復旧計画

これは災害発生後、被災した各施設の原形復旧にあわせて、再度災害の発生を防止するため必要な施設の新設、改良を行ない将来の災害に備えます。

以上、五つの柱からなります防災計画をたて万全の防災対策をととのえています。